

多読本の選び方

宇野ひかり

皆さんは全て英語で書かれた本を、教科書以外で読んだことはありますか？この大学では、英米語学科、もしくは英語を第二言語として学んでいる人に多読が課題として課せられます。多読とは、外国語習得の基礎となるリーディング力の向上のために、外国語の本を読むことです。今回、ここでは私が一年間多読をし、図書館でアルバイトをした経験の中で得た、多読の本の選び方についてご紹介したいと思います。今年度入学された一年生、またそれ以外の学年の方々の参考になれば嬉しいです。

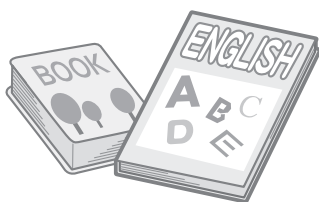
まず、多読の仕組みを簡単にご紹介します。多読の本は「第五閲覧室」と呼ばれる8号館の下にある部屋で借りることが出来ます。種類は二種類あり、Graded Readersとペーパーバックです。前者はレベル0～9に分けられた薄い本のこと、後者は英語の長編小説です。本を読み終わった後、M-Readerと呼ばれるサイトでその本に関するクイズを解き、五問以上正解すると本の語数が登録されます。多読の課題は定められた語数分、本を読むことを求められます。

今回はGraded Readersの選び方を説明します。英語の本を読むことに慣れていない一年生や文字がたくさん書いてある本が苦手な人は、レベル0～2の本がおすすめです。このレベルの本は語数が少なく、簡単な日常で使う英語が多いです。また、全体的に挿絵が多く、文字も大きいため読みやすいです。これらの本で多読に慣れ、いろいろな話を読みたいなら、レベル

3を読んでみましょう。本の種類にもよりますが、話の内容が歴史上の人物や有名な映画など、分かりやすい本が揃っています。レベル4、5は8000～10000語の本が多く、レベル6以降は内容も少し難しいものが増えてきます。レベル4からは読書に抵抗がない人が挑戦していくとよいでしょう。他にもYoung Readerというレベル1～7に分けられた本もあります。こちらは挿絵が多く、字も大きめです。Graded Readersの同じレベルの本で比べるとYoung Readerの方が易しめです。また、シリーズものが多いため、一つのシリーズを読み終えるたびに達成感も得られます。

ここからは多読本を読む際のコツについてご紹介します。クイズに正解しなければならないため、自分に合ったレベルを選ぶことが大切です。同じレベルの本を八冊ほど読んだら、試しに一つ上のレベルの本を読んでみて下さい。そこで問題なく読めるようなら、レベルを上げて大丈夫です。反対に、単語が分からずよく止まってしまうなら、レベルを下げましょう。また、早めに自分の読み方を見極めておくと読みやすくなります。語数が少ない本をたくさん読むのか、語数が多い本を少なく読むのか。人によって違うため、簡単にでも読む方針を決めておくと楽になると思います。

いかがでしょうか。多読の本には、おとぎ話や有名な小説など、さまざまな種類があります。自分が好きなジャンルを読むと、クイズにも受かりやすくなります。ぜひ、探してみてください。読書が好きな人はより楽しく、苦手な人は力をつけられるように、頑張りましょう。



うの ひかり（英米語学科1年次生）